



日本の新潟県糸魚川市青海川で150トンの巨大なヒスイ輝石岩の塊を調査しているジョージ・ハーロー氏、松原聡氏、フランコ・マンチーニ氏、宮島宏氏（2000年9月）。

鉱物学は非常にアクティブな学問分野で、急速に発展しながら我々の社会の様々な面に大きな影響を与えています。

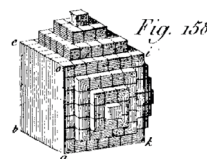
- ・ 鉱物学は地質学の基礎であり、地球科学全体を支えています。
- ・ 鉱物学は、鉱物の構造を理解する上で不可欠な、結晶の対称性を論じる結晶学と密接に関わっています。
- ・ 鉱物の多様性と進化は、生命の発生を含む惑星の進化を考える上での一つの指標となっています。従って、それを理解することは、太陽系外惑星における生命探索を含め、惑星科学研究を進める上でも重要です。
- ・ 鉱物学は、天然の鉱床や人工合成物などから持続可能な新しい資源（戦略的金属など）を探索するために不可欠な学問です。また、新しい天然資源の探査は、多くの開発途上国において基本的な戦略となっています。
- ・ 鉱物は世の中の様々なところで活用されており、（例えば、ルビーレーザーや水晶時計、携帯電話、コンピュータチップやテレビのスクリーン、航空機のエンジンなどに使われるコルタン（コルプ石ータンタル石グループの鉱物）、空気やガスの除湿や浄化、イオン交換、猫砂などにも応用されているゼオライトなど）、それらが無い世界を想像することはできません。

2022年： 鉱物学 を祝う 一年



なぜ2022年なのでしょう？

2022年は、近代鉱物学と結晶学の父といわれているルネ・ジュスト・アユイ（1743年生まれ）の没後200年にあたる年だからです。



連絡先 Patrick Cordier
(patrick.cordier@univ-lille.fr),
IMA前会長

MINERALOGY 2022

世界鉱物年2022

鉱物学を祝う 一年



世界鉱物年の目的は：

- ・ 物質の科学が現代社会の革新と発展をどのように支えているかについて、社会の関心を高めること
- ・ 天然の鉱物結晶の魅力を通して若者を科学に引き付けること
- ・ 鉱物学を通して科学の普遍性を示すこと
- ・ 発展途上国（特に天然資源が開発されている国々）における鉱物学の学会発足を支援すること
- ・ 先進国と途上国間のネットワークを構築し、国際交流と連携を強化、促進すること
- ・ 鉱物学・結晶学の教育研究を促進し、他の学術分野との連携につなげること
- ・ 天然資源の重要性に対する国民の意識・関心を高めること



メインイベントとして、7月中旬にリヨンで開催されるIMA（国際鉱物学連合）総会期間中に市民講演会を開催します([https:// www.ima2022.fr/](https://www.ima2022.fr/))。これらの講演会は、リヨンで一般向けに行われ、Youtubeでもライブ配信される予定です。

「世界鉱物年2022」は、私たちの日常生活においても重要な鉱物学を世界的に祝う年です。

ユネスコにより承認された「持続可能な発展のための国際基礎科学年 (IYBSSD2022)」事業の一貫です



各国の学会はどのように参画するのですか？

- ・ 一般講演や普及講演を主宰し、それらを市民に宣伝します。
- ・ 博物館において、鉱物に関する特別な催しを行います。
- ・ 我々の抱えている課題を若手へ伝え広めることを学会員の皆さんへ呼びかけます。
- ・ あらゆる国の科学者が学会イベントに参加できるよう手配し、研究プロジェクトや国際会議などでの連携協力をバックアップします。

世界鉱物年2022年はすでに始まっています。

IMAは、皆さんが新しいプロジェクトを立ち上げたり、現有的課題を国際的に関心の高いものにするためのサポートを行っています。前述の目的を達成するための取り組みは、2022年で終わるものではありません。IYBSSDは2023年中旬まで継続しますので、2022年と2023年にまたがる企画を歓迎します。この事業はさらに将来に向けて継続されるべきで、2022年は単にその始まりの年なのです！

皆さんの企画は、世界の人々に広く知っていたくために世界鉱物年2022のウェブサイト

(www.min2022.org) に掲載します。皆さんの企画や取り組みを国際的に周知・宣伝するためにも、このウェブサイトをぜひご活用ください。また、さらに広く情報を発信するためにTwitter (#Mineralogy2022)も活用する予定です。

国際鉱物学連合 (IMA) は鉱物学を振興する世界で最も大きな学術組織です。39の各国の鉱物学会/学術団体がメンバーとして参加しています。IMAは、国際地質科学連合 (IUGS) の関連団体で、国際学術会議 (ISC) およびユネスコとも密接に連携しながら、長期的な学術プログラムやプロジェクトの推進に取り組んでいます。